

## 研修実施計画書

### 1. 研修題名

令和4年度 安全・保守管理群 化学物質管理チーム 専門研修  
3M オンラインセミナー「呼吸保護プログラム」

### 2. 研修のねらい・目標

なぜこの研修を行うのか。大学目標や総合技術部課題との関連。

ガスモニターを使用した有機ガスの個人ばく露測定あるいは溶接ヒューム濃度測定の結果得られた要求防護係数に基づく製品選定などについて知見を深める。

### 3. 期待される成果

研修によって何がどう変わるのか。

有機ガスの個人ばく露測定あるいは溶接ヒューム濃度測定の結果得られた要求防護係数に基づく製品選定をすることにより、大学において、安全かつ健康的に研究・教育に従事することができるようになる。

### 4. 研修内容

要綱に記載のないことがあれば記入する

正しい呼吸用保護具を選択するプロセスは複雑。

気中有害物質の危険性や濃度を理解するためには、専門的な知識やサポートが必要。

最も適切な呼吸用保護具を選定して正しく使用するためには、ステップを踏む必要がある。

今回開催するオンラインセミナーでは以下のステップを詳しくご紹介。

1. Detect : 作業現場に存在する有害性の特定
2. Select : 有効な呼吸用保護具の選定
3. Protect : 安全と健康を保つために呼吸保護プログラムを実施

## 研修実施報告書

### 1. 研修題名

令和4年度 安全・保守管理群 化学物質管理チーム 専門研修  
3M オンラインセミナー「呼吸保護プログラム」

### 2. 研修のねらい・目標

研修計画書に記載した内容

ガスモニターを使用した有機ガスの個人ばく露測定あるいは溶接ヒューム濃度測定の結果得られた要求防護係数に基づく製品選定などについて知見を深める。

### 3. 研修内容

参加者数、研修実施に当たって工夫した点など

前回の化学物質管理チーム 専門研修の後、チームだけでなく、安全・保守管理群全体でも希望者を募って欲しいとの要望があり、職群代表から安全・保守管理群全員に専門研修の通知をしてもらった。

⇒安全衛生管理チーム2名、化学物質管理チーム3名、寒剤供給チーム1名と3チームからの参加があった。

### 4. 研修成果

期待される成果が達成できたか。研修の実施によって何が変わり、今後、大学に対してどのような貢献ができるか。

化学物質による労働災害を防止するため、労働安全衛生規則等の一部を改正法改正に伴い、国によるばく露の上限となる基準の策定、危険性・有害性情報の伝達の整備拡充等を前提として、事業者が、リスクアセスメントの結果に基づき、ばく露防止のための措置を適切に実施する制度を導入していかなければならないことに対し、保護具メーカーの3Mのオンラインセミナーを受講することにより、現場にて、実際にどういったことを行っていかなければならないかについて、具体的に知ることができた。

### 5. 課題

研修実施後に新たに見出した課題は何か。

事業場における化学物質に関する管理体制や化学物質を取り扱う際に労働者に適切な保護具を使用させること等の化学物質の自律的な管理体制の整備が求められているため、適切な呼吸用保護具の選定と着用状態を確認するフィットテストの実施が不可欠である。